

新産地化への道

山口県繊維加工協組
シンポジウムより

1

シーンスやユニフォームを中心とした縫製関連企業で構成する山口県繊維加工協同組合は、このほど衣料製造業人材育成研修シンポジウムを開催し、「メイドイン・ジャパンの多角的連携による地域の新産地化を考察する」をテーマにパネル討論を行った。その内容を紹介する。

岡部 最初に最近の衣料品市場をにぎわす廉価商品の登場があります。ですが、(消費者は)一それこそシーンスでも一度試してみたらいいと思000円を切る商品が出てきました。これについて、それぞれのお立場でどのように考えているかお聞かせください。

ら、次のシーズンにどうなるかで一定の答えが出るでしょう。我々はここに向けて考えないといけません。

岡部 宇治さん、素材やテキスタイルの視点ではいかがですか。

宇治 普段、素材メーカー、繊維物輸入量がどうなっ

廉価品の影響甚大

本多 ファストファッションや廉価品の登場ですが、(消費者は)一度試してみたらいいと思000円を切る商品が出てきました。これについて、それぞれのお立場でどのように考えているかお聞かせください。

を体験したわけですか

績協会の統計によると今年上半期(1~6月)の綿糸の会員会社国内生産量が前年同期比40%減、綿糸輸入量が27%減です。それだけ国内での織・編み物生産が減少し、何をもちらしたか一

数量では4.2%増です。国内での糸・生地消費の減少に対して、製品輸入が増加。しかも単価は下がっている。市場の行き過ぎた低価格戦略が、何をもちらしたか一目瞭然です。実際に産地企業は上期、それこそ設



左から宗近氏、河内氏、本紙・宇治記者、本多氏

は百貨店の役割がなくなっています。とくに最近消費者が賢くなり、商品を買う場所を使い分けています。そうなる、やはり百貨店らしい付加価値を深掘りするしかないと考えています。

宇治 感覚としては同じですね。生地の次の段階が縫製となります。

岡部 そこで、高付加価値製品の最高売り場として百貨店があら

- パネルー
- 日本モデリスト協会事務局長 本多 徹 氏
 - 山口井筒屋 社長 河内一彦 氏
 - 山口経済研究所 調査研究部長 宗近 孝憲 氏
 - 本紙「繊維ニュース」記者 宇治 光洋
 - コーディネーター
 - 山口県繊維加工協同組合 理事長 岡部 泰民 氏